



大聖寺合戦古戦場



山口玄蕃首塚（加賀市大聖寺新町）

慶長5年（1600）7月19日早朝、宇喜多秀家ら西軍は徳川家康の家臣鳥居元忠が城代をつとめる伏見城を包囲する。石田三成挙兵の密書は、同24日下野国小山城の家康のもとに届き、直ちに諸将と合議した（小山評定）。

同26日三成討伐の書状を受け取った利長は、大聖寺の山口宗永を討つため、2万5千の兵を率いて金沢城を出陣する。西軍に味方する小松城主丹羽長重を牽制しつつ小松城を迂回し、8月1日松山城に布陣した。翌2日、久里九郎兵衛、村井久左衛門を使者として宗永に降伏を勧めたが拒否され、3日早朝大聖寺城に向け軍勢を進めた。先鋒の山崎長鏡は途中作見あたりで南郷に待ち伏せる宗永の子右京亮修弘の軍勢を発見し、下河崎を回り側面から右京軍を攻撃した。右京軍は後退しながら応戦したが、鉄砲の乱射に崩され大聖寺城に逃げ込む。前田軍はその勢いのまま大聖寺城に攻め掛かり同日夕刻頃ついに落城した。

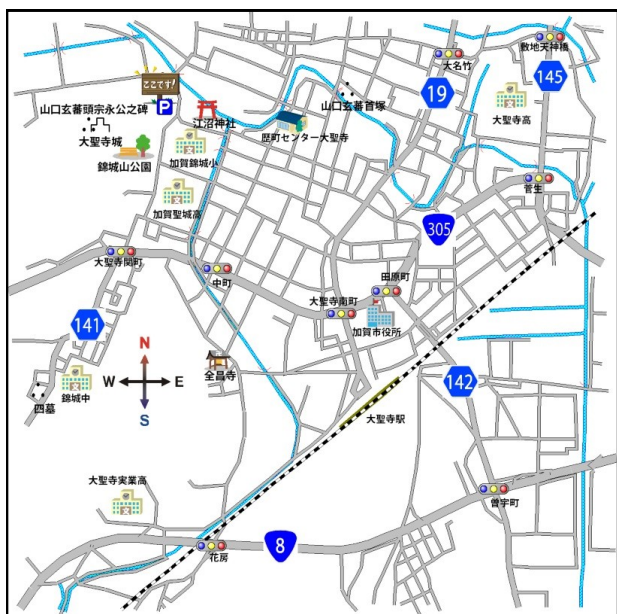
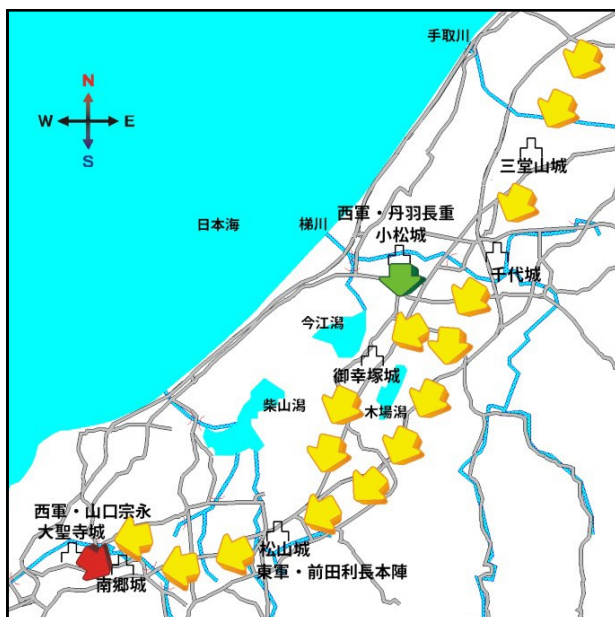
山口軍記には、宗永は大声をあげ降参したが、寄せ手の前田方の将はこれを認めず猛攻を続け本丸に進入、右京

は本丸が破られたのを見て山崎長鏡の家臣木崎長左衛門を呼び、自分の名を名乗り功名にせよと云って、一太刀も交えずに切腹して首を討たせたと記している。

山口父子の遺骸は城下福田橋傍に葬られた。地元の伝承では山口父子は大聖寺城を辛くも脱出し新町まで逃れて8月8日共に自決したと伝えられ、その地に宗永の首塚が建っている。子修弘の首塚はのちに菩提寺の全昌寺に移された。西町には前田方の長連龍の家臣4人の墓といわれる四墓がある。

合戦地：石川県加賀市大聖寺
対戦者：前田利長（東軍） vs. 山口宗永（西軍）
軍勢：前田軍 約25000
山口軍 約500
開始年：慶長5（1600）年8月

「大聖寺城の戦い」は、関ヶ原合戦の前哨戦として石川県江沼郡で東軍に味方する金沢城主前田利長と西軍に味方する大聖寺城主山口宗永が対戦した合戦。



古戦場カードに関する最新情報・お問い合わせ
北陸城郭プロジェクト（フリー・スタイル有限会社）
〒929-0335 石川県河北郡津幡町井上の荘3-9
TEL. 076-204-6046 FAX. 076-289-3943
E-MAIL. contact@j-sampo.com
ホームページ城郭さんぽ <https://www.j-sampo.com/>